

**自分の思いや考えを持ち、意欲的に表現できる子を育てる授業づくり**  
**—小学校3年生「スピーチ活動」「サーカスのライオン」の実践を通して—**

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
時田 恵菜

## 1 はじめに

私は、知立市立猿渡小学校で約1年間半、学校サポーター活動や教師力向上実習を通して学級づくりや授業づくりについて多くのことを学ばせていく機会を得た。特に、子どもの実態に即した指導をすることや、1年間の見通しを持って指導をすることの大切さを知ることができ、教師としての幅を広げることができた。

私は、学級づくりにおいて、相手の立場に立って考えられる力や良さを認め合えるより良い人間関係を作ることができるように子ども達を育てていくことが大切だと考える。

また、授業づくりにおいては「話す」「聞く」「書く」「読む」といったすべての教科の基本となる「言葉の力」を育てていくことが必要だと考える。そして、自分の思いや考えを持って、自分から「話したい」「聞きたい」「書きたい」「読みたい」と思い、友だちとかかわり合ったり、学び合ったりできる子どもを育てていきたい。

## 2 新学習指導要領で求められている力と子どもたちの実態から

### (1) 生きる力を育てるために

生きる力は、変化の激しい社会の中で、子ども達に必要な力として平成8年7月の中央教育審議会答申で提言された。生きる力とは、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力」(注1)である。平成20年に改訂された新学習指導要領でも、「生きる力」が知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、この力を継承していくことが重視されている。

サポーター校での子ども達の様子として、自分の思いや考えを伝えるのが苦手なために友だちとトラブルになってしまったことがあった。また、人の話を最後まできちんと聞くことができなかったり、自分の考えを持つことができないという子もいた。このような子ども達の様子から、自分の思いや考えを持ちお互いを認め合えるようにかかわり合ったり、学び合ったりできる子ども達を育てていきたいと考えた。

### (2) 思考力・判断力・表現力を育てるために

平成20年に告示された新学習指導要領では、生きる力を支える「知」として「確かな学力」を育成することが重要だとされている。確かな学力を身に付けるために必要な力が「基礎・基本的な知識・技能」、さらにこれらの力を活用して問題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」である。また、「思考力・判断力・表現力」を育てるために、言語活動を充実させることが重視されている。

平成20年に改訂された新学習指導要領総則において、「知識・技能を習得するの、これらを活用し課題を解決するために思考し・判断し・表現するの、すべて言語によって行われるもの」(注2)と述べられている。そして、「言語は、論理的思考だけではなく、コミュニケーションや慣性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。」(注3)と述べられている。これらのことより、学習活動の基盤となるのは、言語力であり思考力・判断力・表現力を育てるためには、言語力を育成していくことが求められていることがわかる。

### (3) 自分の思いや考えを持ち、意欲的に表現できる子を育てるために

実習の中で、国語の文学教材の単元などにおいて、主人公の気持ちを想像して自分の考えを書くという活動の際に自分の思いや考えをなかなか書けない子がいた。自分の思いや考えを持っていない子ども達に思いや考えを持たせ、どのように言えればいいのかを指導していく必要があると感じた。「話す」「聞く」「書く」「読む」といった言語力を育てるとともに自分の思いや考えを持たせ、習得・活用の段階を明確にして指導や評価を組み立てていくことが大切であると考えた。

また、自分の思いや考えを安心して表現するためには、互いの良さを認め合えるような学級を作っていくことが大切だと考える。子ども達が、自分の思いや考えに自信が持て、安心して思いや考えを表現(話す・聞く・書く・読む)できるようにしたい。

以上のようなことから私は、「自分の思いや考えを持ち、意欲的に表現できる子を育てる授業作り」というテーマを設定し、小学校3年生において「スピーチ活動」と「サーカスのライオン」で、実践を行った。

### 3 教師力向上実習Ⅰ(学級作り)の実践 —スピーチ活動(学級活動・国語)の授業を通して—

#### 3-1 実践の構想

##### (1) 子どもの実態

子ども達は、4月に学級が変わり、少しずつ新しいクラスにも慣れてきた。中学年になり交遊関係も広がりつつあるが仲の良い子と共に過ごしたりすることが多く、他の子と接することの少ない子もいる。

また、自分の気持ちを言葉で表現するとなると戸惑ってしまう子、自分の気持ちを言葉で伝えられないために友だちとトラブルをおこしてしまう子、人の話を最後まで聞けない子などがいた。そこで、子ども達に、「話すこと」「聞くこと」に対してどのように思っているのかのアンケート(35人)をとったところ以下ようになった。

	とても好き	少し好き	少し嫌い	とても嫌い
みんなの前で話すことは好きですか。	11人	17人	6人	1人
人の話を聞くことは好きですか。	19人	14人	2人	0人

アンケートの結果から、「話す・聞くこと」に、あまり抵抗のない子どもが多いことがわかる。「話すこと」が好きな理由としては、「自分の言いたいことを話せる」「みんなの知らないことを教えることができるから」という意見があった。話すことに抵抗のある理由として、「恥ずかしい」「緊張してしまう」「どのように話していいかわからない」という意見があった。

また、「話すこと」に関して以下のようなアンケートをとった。

	はい	いいえ
話をするときこまったことはありませんか。(みんなの前に出て話す時)	12人	23人
話をしている時に、自分の伝えたいことがうまく伝わらないことがありますか。	13人	22人

「どのようなことに困ったか」という質問に対しては、「何をどのような順番で話せばいいのかわからな

い」「言いたいことが伝わらない」という意見があった。「伝えたいことがうまく伝わらない理由」に対しては、「たくさん話せない」「話す順番がわからない」という意見があった。このような結果から、話す内容や話し方にとまどっている子がいることがわかった。

また、「聞くこと」に関しては、「聞くこと」が好きな子は多い。しかし、子どもの様子を見てみると、話を最後まで聞けない子や、下を向いていたり、友だちとおしゃべりしたりして聞いていない子が見られた。

以上の子ども達の様子より、スピーチ活動を取り上げ互いについて知る機会を設け、交遊関係を深めたいと考えた。また、自分の話を聞いてくれるという安心感や相手が何を思っているのか相手の立場に立って考えようとする気持ちを高めて、互いを認め合う態度を育てていきたいと思いスピーチ活動を行うことにした。

##### (2) スピーチ活動を通して子ども達に育てたい力 スピーチ活動の実践のねらいは以下の2つである。

- ① 人の話をきちんと最後まで聞くといった聞き方、自分の思いや考えを言葉でわかりやすく伝える話し方など話す・聞くことの基礎・基本を身につけることができる。
- ② 自分の思いや考えを伝えることで、お互いを知る機会を作り、友だちから認められ、受け入れられることの喜びを感じることができる。

そのために、以下の3つの力を子ども達に育てたいと考えた。

##### 【育てたい力】

- (ア)話すこと・聞くことの基礎・基本を身に付けること(不安や苦手意識をなくす)
- (イ)自分の考えを相手にわかりやすく伝えること
- (ウ)友だちから認められ、受け入れられる喜びを感じながら話したり、聞いたりすること

スピーチ活動を通して、これらの力を育てることでも「話す」「聞く」ことへの不安感や苦手意識をなくし、互いを認め合いながら「話したい」「聞きたい」という意欲を持ち、自信を持って学級の中で表現することのできる子どもに育てられるのではないかと考えた。

#### 3-2 指導計画

【表1】は「スピーチ活動を通して子ども達に育てたい力」を踏まえた指導計画である。なお、本実践は、学級活動の時間だけではなく、国語の時間も使い、「話すこと・聞くこと」の単元と関連づけて行うことにした。

【表 1 「スピーチ活動の指導計画」(5 時間完了)】

時間	学習活動	到達目標 (評価基準)	教科
第 1 次 (1 時間)  習得	・教師のモデルスピーチを聞き、話し方・聞き方で大切なことを考える。	・スピーチする時の話し方・聞き方のこつを理解することができる。 ＜話し方のこつ＞ ① 大きな声で話す。 ② ゆっくりと話す。 ③ 聞き手をみて話す。 ＜聞き方のこつ＞ ① 姿勢を正しくして聞く。 ② 話し手をみながら聞く。 ③ うなずきながら聞く。 ④ 話の内ようをつかむ。 ⑤ 自分の考えや感想を持つ。	国語
第 2 次 (1 時間) 習得	・自分の考えを分かりやすく伝えるために、論理的な文章の型(「はじめ」「なか」「まとめ」)を知る。	・伝えたいことを論理的な文章構成で組み立てることができる。	国語
第 3 次 (1 時間) 活用	・自信を持ってスピーチできるように、グループでスピーチの練習をする。	・伝えたいことを論理的な文章構成で伝えることができる。 ・友だちのスピーチを聞き、互いの良さを認めあう応援カードを書くことができる。	学 級 活動
第 4 次 (2 時間) 活用	・スピーチ発表会を行い、友だちの良さに気付いたり、自分の新たな考えを発見したりする。	・友だちのスピーチを聞いて初めて知ったこと・すごいと思ったこと・わからない、持つと知りたかったことを書くことができる。	学 級 活動

3-3 指導の流れ

「スピーチ活動を通して子ども達に育てたい力」を身につけさせるために以下のような手順(1)～(3)で指導を行った。

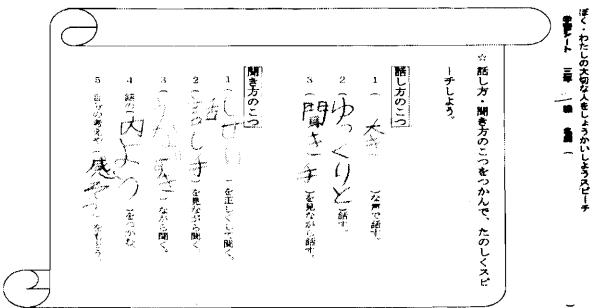
(1) 話すこと・聞くことの基礎・基本を身に付ける。 [育てたい力 (ア)]

・教師によるモデルスピーチ  
教師の「大切な人」のスピーチをビデオに撮り、子ども達に見せた。モデルスピーチでは、声の大きさ・話す速さ・間の取り方など、子どもの見本となるようにスピーチをした。ビデオを見せた後で、モデルスピーチについての感想を聞いたところ、「モデルスピーチで良かったところ」や「内容についてどう思ったか」などの意見が出た。  
そして、再度ビデオを見せて自分達が気付いたこと

とモデルスピーチとあっているか、再度確認できるようにした。ビデオを 2 回見せることで、1 回のモデルスピーチよりもスピーチについての理解が深まると考えた。

・話し方・聞き方のルール設定  
友だちが自分の話をしっかりと聞いてくれるという安心感や、自分の思いを「友だちに伝えたい、もっと話したい」という思い、「友だちの話を聞きたい」という意欲をもたせるためには、話し方・聞き方の姿勢を身に付けさせることは必要である。  
スピーチ活動を行っていく上で楽しく話したり、聞いたりすることができるように、「話し方・聞き方のこつ」として子どもにどんなことを大切にしたいかの意見を出させた。自分が聞き手や話し手の立場に立ったときに「どのように話してほしいか、聞いてほしいか」といった視点に立たせて、考えさせた。さらに、教師のモデルスピーチでの話し方も参考にさせた。

【資料 1 「話し方・聞き方のこつ」の学習シート】



「話し方・聞き方のこつ」を知ろうということで、【資料 1】を使って、共通に理解できるようにした。また、スピーチ練習やスピーチ発表会の前に、話し方・聞き方のこつを順番に確認して全員が認識できるようにした。

(2) 自分の考えを相手にわかりやすく伝える。 [育てたい力 (イ)]

・スピーチメモの作成  
「大切な人」について、どのような順番で話したらわかりやすいのかを理解させるために、「はじめ」「なか」「まとめ」の順番でメモを書く活動を取り入れた。また、「はじめ」「なか」「まとめ」でどのような内容を書けばいいのかそれぞれ書く内容を示した。

はじめ：大切な人は誰か。  
なか：大切な人との心に残る出来事。  
大切な理由。  
まとめ：その人についての自分の思いや考え。

スピーチメモを作ることによって、スピーチ時に自信を持って自分の伝えたいことを伝えられるようになる考えた。

### (3) 友だちから認められ、受け入れられる喜びを感じながら話したり、聞いたりする。

【育てたい力 (ウ)】

#### ・スピーチ練習をグループ活動で

自信を持ってスピーチ発表会でスピーチできるように練習の時間を設定した。まずは、1人で練習させた。話し方は、自分達で決めた「話し方のこつ」に沿っているかに視点をおくようにして練習させた。

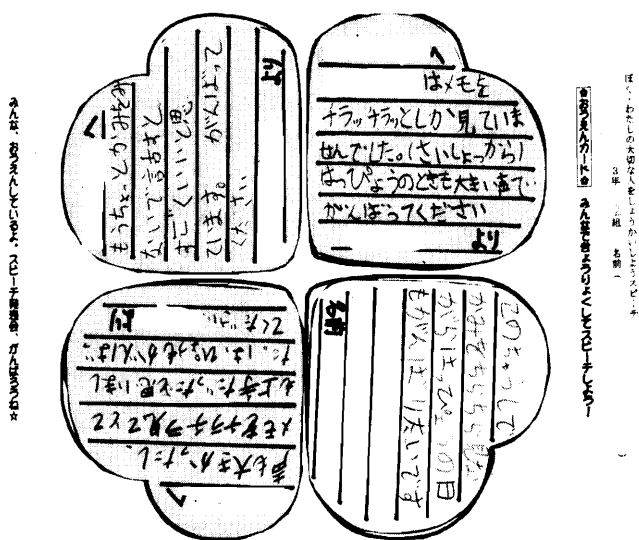
次に、グループで互いのスピーチを聞き合い助言する機会を設けた。助言の内容としては「話し方のこつ」に沿っているか、話の内容は「はじめ・なか・まとめ」の順番で話せているかなどである。

全体の前で発表することに自信が持てない子には、グループでしっかり話せたという自信を持たせ、スピーチ発表会に臨ませたいと考えグループ活動を取り入れた。

#### ・応援カードの活用

グループでスピーチ練習をした友だちから、スピーチをする子に対して応援のメッセージやスピーチする時に「もっとこうの方がいい」というアドバイスを書く応援カード【資料2】を活用した。応援カードを書いてもらうことによって、グループの子が応援してくれているから頑張ろうという思いを持ってスピーチ発表会に臨めるようにした。

【資料2 応援カード】



#### ・スピーチ発表会での自己評価

スピーチ発表会では、自分の話し方や聞き方に対してスピーチ振り返り学習シート【資料3】を使って自己評価させた。

【資料3 スピーチ振り返り学習シート】

話し方のこつ		聞き方のこつ	
① 大きな声で話せたか。	できたか	① 正しい姿勢で聞けたか。	できたか
② ゆっくりと話せたか。	できたか	② 話し手を見ながら聞けたか。	できたか
③ 聞き手をしながら話すことができたか。	できたか	③ うなずきながら聞けたか。	できたか
④ 話の内容よくつかむことができたか。	できたか	④ 話の内容よくつかむことができたか。	できたか
⑤ 自分の考えや感想はもてたか。	できたか	⑤ 自分の考えや感想はもてたか。	できたか

また、スピーチ発表会を通して、自分が思ったことや考えたことを書く欄を作った。また、何を書けばいいかの観点「友だちのスピーチを聞いておもしろいと思ったこと」「スピーチで自分ががんばったこと」などを示して、書かせるようにした。自己評価するだけではなく、自分の思いや考えを書かせることによって、より学びが深まるのではないかと考えた。

### 3-4 実践の成果と課題

#### (1) 実践の成果

##### ① 話し方・聞き方の基礎・基本を身に付けることができた。 【育てたい力(ア)】

教師のモデルスピーチの話し方からいいところを見つけてことができ、どんな話し方をすればいいのかを子どもが自分達で気付くことができた。また、聞き方についても、どのように自分が聞いてくれたら嬉しいかを考えることで、聞き方についても自分達で考えることができた。

スピーチ発表会では、「話し方のこつ」「聞き方のこつ」を意識しながら話せていたり聞けていたりした。また、話し手の方がスピーチの途中でつまってしまった子には、「頑張れ」「大丈夫だよ」と声をかけながら、話を最後まで聞こうする姿がみられた。

##### ② 自分の話をわかりやすく相手に伝える方法が学ぶことができた。 【育てたい力(イ)】

自分の話をする時には、思いついたことを話すのではなく、「はじめ・なか・まとめ」の順番にして話していけばいいということがわかった。また、話す内容を「はじめ・なか・まとめ」の順番でスピーチメモ学習シート【資料4】を使って書くことで、何を話したかったかを忘れずに、自分の伝えたいことをわかりやすく伝えることができた。

以上のような子どもの姿や感想から友だちのことを思いやる気持ちや友だちのことを知ろうとする気持ちが芽生えたのではないかなと思う。

さらに、スピーチ活動振り返りカードの感想の中には、「自分がこんなところを頑張ってスピーチをした」「○○さんの大切な人がわかってよかった」などがあり、相手にわかりやすく話そうとすることや相手のことを知ることの喜びに気づくことができた。

① 全員が理解できるスピーチメモを書かせることができなかった。 [育てたい力 (イ)]

上記の成果のところでも書いたが、スピーチメモを聞き手にわかりやすく伝えるためには、「はじめ」「なか」「まとめ」の順番で書くことは、子ども達が理解することができた。しかし、スピーチメモの書き方で、自分の話したいことを短い文でまとめて書くことが難しいと感じている子どもが多かった。話し言葉で書いてしまう子どももいた。メモを書くことについては、「メモの書き方」を学ばせる時間をとる必要があったのではないかと考える。

② 交流の時間を十分に取ることができなかった。  
[育てたい力 (ウ)]

本実践では、スピーチをスピーチ発表会という形で2時間で35人のスピーチを行ったので、スピーチを聞いての感想を書くことはできたが、思ったことを交流する時間を取ることができなかった。スピーチをして、すぐに交流すると、話し手も聞き手もどんなところがよかったかなどを実感することができるのではないかと思う。

#### 4 教師力向上実習Ⅱ(授業作り)の実践

ー「サーカスのライオン」(国語)の授業を通してー

#### 4-1 実践の構想

### (1)子どもの実態

子ども達は、実習Ⅰで話し方・聞き方の基礎・基本は身に付けることができ、発言する時など、互いの良さを認め合える発言をすることができた。また、実習Ⅰでは、スピーチのテーマが身近な自分の経験であったため、それを振り返ることで、自分の思いや考えを持つことができた。

一方で、国語などの文学教材で主人公の気持ちを考えるという場面で、自分の思いや考えを持っていない子がいた。それは、文章中のどのような言葉に着目すれば、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取ることができるかがわからないからであると考ええる。

また、自分の考えや思いを持っている子の中には、自分の考えや思いを言葉で話すことに苦手意識を感じている子もいる。以上のような子ども達の実態から自

③ 友だちから認められ、受け入れられることの喜びを感じさせることができた。

[育てたい力 (ウ)]

グループ内でのスピーチ練習では、「スピーチメモはあまり見ずに聞き手をみるともっととよくなるよ」や「大きな声で話せていてわかりやすかったよ」などと互いのスピーチについて良いところを認め合う子どもの姿を見ることができた。

また、応援カードでも「〇〇さんの話し方は声が大きくてとても聞きやすかったよ」「〇〇さん、もう少し～するともっとスピーチが上手になるよ」「スピーチ発表会、がんばろうね」など、励ましの言葉や相手を認める言葉があった。スピーチ発表会に向けて、グループ全員で一緒に頑張ろうという思いを持てたのではないかと考える。スピーチを聞いての感想では、「大きな声で話せていたよ」「〇〇さんは、〇〇さんが本当に大切なんだね」などと書いている子が多かった。「話し方のこつ」ができてきているかの視点で書いている子や話の内容から思ったことなどを書いている子もいた。

—25—

分の思いや考えを持ち、自信を持って、発言できる子どもに育てたいと考えた。

## (2)「サーカスのライオン」の指導を通して子どもたちに育てたい力

本実践「サーカスのライオン」の読み取りの活動を通してのねらいは以下の2つである。

- ① 自分の思いや考えを持つことができる。
- ② 自分の思いや考えを人に伝えようとすることができる。

自分の思いや考えを持たせるためには、論理的に読むことが必要だと考える。「論理的に読む」ことは、文章に書いてあることを根拠にすることである。文章中の言葉を正確に抜き出して、それを基に、自分の考えを持たせたい。自分の思いや考えを持ち、自信を持って表現できるようにするためには、以下の4つの力が必要だと考える。

### 【育てたい力】

- (ア) 主人公の気持ちや様子が書いてある所がわかる。
- (イ) 書いてあることをもとに、自分の考えを書く。
- (ウ) 自分の思いや考えに自信を持って伝えようとする。
- (エ) 自分の思いや考えと、友だちの思いや考えとの違いを感じる。

## 4-2 指導計画

【表2】は『サーカスのライオン』の実践を通して、子ども達に育てたい力を踏まえた指導計画である。

【表2 サーカスのライオンの指導計画  
(11時間完了)】

学習段階	時数	主な学習活動	評価基準
習得	2	1 教材文を通読し読んだ感想をまとめて、学習全体の見通しを持つ。 2 挿絵や叙述(時・場所に注目、誰がどんなことをしているかなど)を基に物語がどんな場面から構成されているかを知り、あらすじをつかむ。	・教材文に興味を持ち、感想を書くことができる。 ・物語がどのような場面から構成されているか知る。
習得	6	3～8 各場面の主人公の気持ちを想像して学習シートにまとめじんの	・本文の叙述をもとに主人公の気持ちを読み取るこ

		気持ちや気持ちの変化をとらえる。	ができる。
活用	2	9～10「サーカスのライオン」を読み、一番強く心に残ったことについての感想を書く。	・心に残った場面を選び、その理由を明確にして物語の感想を書くことができる。
活用	1	11 自分の書いた感想を友だちと読みあい、友だちの感想と自分の感想の良さや違いなどを書く。	・友だちの感想と自分の感想との違いや良さを感じることができる。

## 4-3 指導の流れ

『サーカスのライオン』の指導を通して子ども達に育てたい力を身につけさせるために以下のような手順(1)～(5)で指導を行った。

### (1) 主人公の気持ちや様子が書いてあるところがわかる。 【育てたい力 (ア)】

本実践では、登場人物の言葉や行動、挿絵をもとに人物の気持ちを想像して読むことや場面によってどのように人物の気持ちに変化していくのかを軸にして読み取りをさせていった。そして、各場面で主人公の気持ちや様子がわかる言葉に線を引かせる活動を行った。初めて線を引かせる活動を行った時には、子ども達に線を引かせる前に、どのような所に線を引いたらいいかを子ども達が十分に理解できるようにした。どのような様子や言葉に着目すれば気持ちを考えることができるのか、全員が共通理解できるようにした。

### (2) 自分の思いや考えを書く。 【育てたい力 (イ)】

本文の言葉を基に、主人公の気持ちについて自分の思いや考えを書く所には、吹き出しを用いて書かせるようにした【資料6】。文章中の気持ちがわかる言葉に線を引くことはできても、自分の考えを書くことが難しい子も中にはいるだろうと考えた。自分の考えを書くことに抵抗がある子でも、主人公の気持ちをセリフにすることで、主人公になりきって気持ちを考えることができるのではないかと考えた。主人公の気持ちをセリフにすることで、自分の思いや考えを持てるようにした。

また、その時の主人公の気持ちを表情に表わすようにした。そして、場面ごとの表情図をかくことによって、主人公の気持ちの変化についても理解できるよう

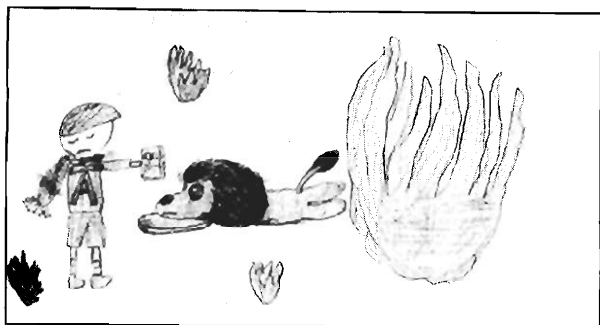


をみんなに伝えようとする意欲が感じられた。

③ 自分の思いや考えを持ち感想を書くことができた。  
【育てたい力 (イ)(ウ)】

【資料7】を用いて感想を書かせた。「はじめ」「なか」「まとめ」の順番と、どういった内容を書けばいいのかの型を教えたので、子ども達は感想を以前よりも書くことができていた。

【資料7 感想学習シート】



空に消えた ライオン  
三年二組  
わたしは第四場面の男の子をたずねたしんざがひいて空に消えてしまったところか、感とうしました。どうしてかという男の子をたずねようとしたじんざは、父にはなれていなかたのに、じんざかどうなてもいいと、しんざをして入ったのです。じんざは、さういふライオンだといふことがわかりました。あのあてしんざはいなくなりました。たけしんざは、父の輪をくぐっていると思いきや、男の子は、あのしんざはみせられなかつた。き、男の子のしんざの中で、しんざしていると思いきや、

(2) 課題

① 友だちの意見と自分の意見をつなぐ話型を身につけさせることが不十分であった。  
【育てたい力 (イ)】

「～さんにつけたしで」「～さんの意見と似ていて」「～さんの意見と違っていて」といった、相手の考えからつなげて自分の考えを伝えることをなかなか意識付けることができなかった。意識できるようにするためには、教師がもっと意図的に子ども達に働きかけることが必要だと感じた。

例えば、誰かが意見を述べてくれた時に、教師が「いまの〇〇さんの意見につけたしのある人はいないかな」と応答したり、似ている意見が出てきたときには、「〇〇さんの意見と△△さんの意見、似ていると思わない？」と全員に問いかける必要がある。どのような時に「つけたし」「似ている」「違う」といった言葉を付け加えて自分の考えを伝えるかを理解させることが必要だと考える。

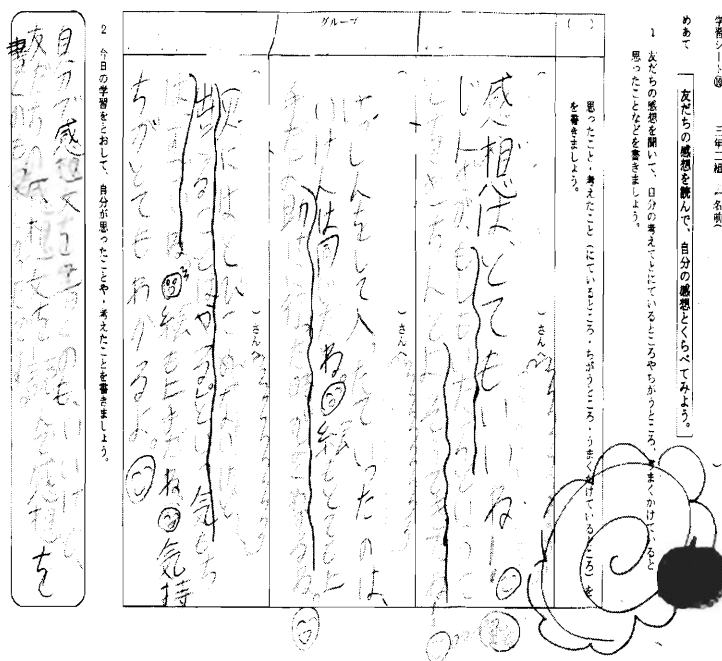
② 自分の考えと友だちの考えとの違いや同じところを感じられるように指導をすることが不十分であった。  
【育てたい力 (エ)】

【資料8】の学習シートを用いて、自分の感想と「似ているところ」「違うところ」「うまく書けているところ」

などの観点を示して、友だちの感想に対しての自分の思いや考えを書かせた。

感想には「気持ちがとても伝わるよ」「自分の感想と違っていた」と書いている子が多かった。しかし、友だちと自分の感想の「違うところ」「同じところ」「うまく書けているところ」を見つけ、書くことはできなかった。「どこが違うのか・同じなのか」の理由を入れて、自分の考えと友だちの考えを比べられるようにしたい。

また、グループの中で読みあうといった活動だけだったので、学級全体で友だちの感想について自分の思いや考えを交流する時間を取るべきだったと考える。



③ 授業の自己評価・振り返りが不十分であった。

毎授業、学習シートに、今日の1時間の授業の学習課題に対する自己評価を書く欄は作ってあったが、今日の授業を振り返って考えたことや思ったことを書く欄は毎回作っていなかった。また、時間が足りず子ども達が自己評価できないまま終ってしまっていた。

毎回の授業の終わりに学習課題に対して自己評価することや、今日の授業を振り返り、わかったことや考えたことを書くことは、学びを深く定着させることにつながると考える。また、「授業で、自分がどんなことを学んだのか」と自分で評価をさせることで、今後の学習意欲を高められると考える。1時間の授業の中で自己評価



や振り返りができるように授業をしていきたい。

## 5 おわりに

### (1) 活用段階での指導の充実

「はじめに」でも述べたが、私は、学級づくりにおいては、相手の立場にたって考え、互いを認め合えるような人間関係づくりをしたいと考えた。授業づくりにおいては、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった言葉の力を育てていきたいと考えた。実習Ⅰでは、「スピーチ活動」を通して、相手の立場に立って考え、互いを認め合うことができた。実習Ⅱでは、国語の学習において、文章の言葉を根拠にして自分の思いや考えを持つことができた。「習得」段階で設定した力を身につけることができた。しかし、実習Ⅰ、Ⅱを通して「スピーチ活動」の際にも、「サーカスのライオン」の読み取りの際にも、「活用」段階で設定した「友だちと考えを交流する」「自分の考えと友だちの考えを比べる」ことが十分にできなかった。友だちと交流して、考えを比べあったりすることで、「どのような力が身につくのか」という指導目標や「何がどこまでできればいいのか」という評価基準・規準を明確にすることが不十分であった。

基礎・基本の力を使って学習活動を行っていく「活用」の力が「どのような力」であるのかを明確にし、単元構想を作っていく必要があると考える。

### (2) 子どもの実態を踏まえた教材作成の充実

実習Ⅰ・Ⅱでは、それぞれ学習シートを作成した。実習Ⅱでの「主人公の気持ちを考える」授業をした際に、子ども達が、書く内容を思いつかない学習シートを作ってしまう、子ども達が学習に意欲を持てないでいた。どのような学習シートならば、子ども達ができそうかなどを考えて子どもの実態をふまえた学習シートを作成することの大切さを感じた。

また、学習シートを作る際に大切なことは、以下の2点だと考える。

- ① 子どもに「書きたい・楽しそう」だと思わせること
  - ② 「何を学べばいいのかわかること」と、「何を学んだのか」がわかること

学習シート作成に限らず、子どもの実態にあった教材作成を行っていきたい。

## 6 教職大学院で学んだこと

学校サポーターで学ばせていただいたことや大学院で学ばせていただいたことを以下、述べていく。

### 6-1 学級づくりの観点から

#### (1) 安心できる学級をめざして

学級づくりは、教師と子どもが共に作っていくものであると感じる。私は、子どもと教師が共に楽しく学

びあうための学級を作っていきたい。子ども達にとって1年間過ごす教室が自分の居場所だと思えるように教室環境を作っていくことの大切さを感じた。子ども達にとって、安心できる教室、楽しい教室にしていけるようにしたい。

### (2) 学級の中の特別な支援を要する子とのかかわり

学校サポーターでは、特別な支援を要する子とかかわる機会があった。生活面では、友だちとトラブルを起こしてしまった時などは叱るのではなく、まずはその子の思いに共感し、何故そのようなことをしてしまったのか、理由を優しく聞くことが大切だと学んだ。そして、「どうすればこのようなことが起こらずにすむのか」を自分で考えられるように支援することが大切だと学んだ。

学習面では、その子が得意なこと・好きなことを伸ばしていったらいいような支援・指導をしていくことが大切であることを学んだ。その子に寄り添った支援をしていきたいと考える。

### 6-2 授業づくりの観点から

#### (1) 指導と評価の一体化を目指して

授業において、「何がどこまでできればいいのか」を見通しを持って評価基準を決めて、授業をすることが大切であることを学んだ。到達点を決めて、そこに到達するまでにどのように授業を進めていくかを考えることが大切だと感じる。また、1時間の到達目標を最初に考えるのではなく、単元全体を通しての到達目標を考えてから、各1時間の授業で「何がどうできればいいのか」を考えることの大切さを実習のなかで教えていただいた。子ども達も、「何をどう学べばいいのか」がわかり、次の学習意欲に持つながっていくと考える。指導と評価を一体化して、授業づくりをしていきたい。

#### (2) 学習につまずいている子とのかかわり

実習の中で、学習につまずいている子が何人かいた。つまづいている子も、学習意欲を持てるようにする指導が大切だと感じている。日頃のノートチェックや机間巡視など、つまづきのある子がどこにつまずいているのかを把握することが大切だと感じた。また、その子達が理解できるように、具体物を使って説明をすることも必要だと考える。そして、その子ができているところまでを必ずほめて、学習意欲を持たせられるようにしていきたい。

### 6-3 学校組織の一員としての観点から

#### (1) 保護者から信頼される教師を目指して

学級や授業で子ども達と関わっていく中で、保護者の方との連携はとても大切だと感じた。また、保護者の方も「子どもをよりよく育てていきたい」という思いがあることを感じた。保護者の方と連携を深めてい

くためには、信頼してもらうことが大切である。

例えば信頼してもらえるように、学級通信で教師の考え方を知ってもらったり、子どもの育成に関して話ができる機会を作ったりしていきたい。

また、子ども同士のトラブルや怪我をした時などには連絡をきちんと入れるなど、常に保護者の方に情報が伝わるようにすることが重要であることを学んだ。また、保護者の方の話を真摯に耳を傾けていくことの大切さも実感することができた。

## （２）教師間での連携の大切さ

教師が連携を取るためには、より良い人間関係を教員同士の間で形成することが大切だと教えていただいた。サポーター校の先生方は、放課や授業後などの空いた時間を使って自分の考えやクラスで起こった出来事などの情報交換や、相談するなどして一人で悩みなどを抱え込まないようにしてみえた。実習をさせていただく中で、教師間の連携はとても重要だと感じた。学級の中で、気になることがあったら、一人で抱え込まずに他の先生方に相談し、協力して解決しようとする姿勢をとっていきたいと感じる。

## （３）地域の方との連携の大切さ

学校は、子どもや保護者の方との関係作りをしていくだけではなく、地域の方との関係をより良く作っていくことが大切であることを学ぶことができた。サポーター校では、地域の方に学校での子ども達の様子を一日公開する機会を何度か設けられていた。地域の方々と共に子ども達をより良く育てていく姿勢が大切だと感じた。

### 【付記】

大学院２年間の実習は、以下の学校でさせていただいた。

<学校サポーター><教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ>

知立市立猿渡小学校(林俊典校長先生 永田基子先生)

<特別課題実習>

豊田市立東保見小学校(新美隆一校長先生)

<教師力向上実習Ⅲ>

弥富市立十四山中学校(奥山巧校長先生 成田啓介先生)

尚、実習中は多くの先生方にご指導ご助言をいただきました。

お世話になった全ての先生方に、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、学校サポーターで継続的にご指導して下さった山田久義先生、教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ、修了報告書をご指導して下さった、川北稔先生、萩原孝先生に心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

### 【注記】

注１．２．３ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館 2008. 8）

### 【主な参考文献】

#### 1 新学習指導要領関係

(1)文部科学省『小学校指導要領解説 国語編』（東洋館 2008. 8）

#### 2 教師力向上実習Ⅰに関わる文献

(1)佐藤洋一「習得・活用と『言語活動の充実』

(『教育科学国語教育』明治図書 2010. 5)

(2)佐藤洋一「『説得力のある報告・スピーチ』の条件」(『教育科学国語教育』明治図書 2007. 12)

(3)佐藤洋一「『メモ・聞く』指導と評価ー基礎基本から交流へ」(教育科学国語教育 明治図書 2001. 5)

(4)左近妙子「『説明力』は、コミュニケーション能力の一部である」(『教育科学国語教育』明治図書 2007. 8)

(5)瀬川榮志 監修 榊原良子編 「言語で『人間関係力』を育てる」(明治図書 2004. 2)

#### 3 教師力向上実習Ⅱに関わる文献

(1)佐藤洋一「あらすじから論理的な批評力を育てる」(『教育科学国語教育 明治図書』2010. 7)

(2)佐藤洋一「『報告・論文の型』で表現力を鍛える」(『教育科学国語教育 明治図書』2010. 10)

(3)小森茂「文学的な文章の授業改善と『全国学力調査』ー学習指導要領・国語に人間は登場するかー」(『教育科学国語教育』明治図書 2011. 7)

(4)小森茂「『C読むこと』の授業改善と『全国学力調査』ーどのように思考力・判断力・表現力を育成するかー」(『教育科学国語教育 明治図書』2011. 8)

(5)有本秀文「『必ず「PISA型読解力」が育つ七つの授業改革ー「読解力表現力」と「クリティカルリーディング」を育てる方法ー」(明治図書 2008. 2)

(6)前田勝洋「授業する力を鍛える」(黎明書房 2007. 3)